

ビジネス・ブレイクスルー大学大学院 中長期計画 (2014年～2023年)															
大項目	項目	目標	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	詳細なプラン		
1	内部質保証	ポリシーとカリキュラムの構築											<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマ・ポリシー・マトリックスの更新</li> <li>・7つのプロフィールの更新</li> <li>・科目別到達目標の作成</li> <li>・科目別到達目標と科目別到達目標の連携</li> <li>・科目別到達目標とディプロマポリシーの連携</li> <li>・魅力的なカリキュラムマップの構築</li> <li>・学生の単位習得に伴うスキルセットの整理</li> <li>・全学3ポリシーの策定及び運用</li> <li>・基礎知識の修得徹底を目的とした取り組み</li> <li>・ディプロマポリシーにもとづく体系的カリキュラムの編成</li> </ul>		
2	生涯教育	生涯教育の機会の提供および高度専門職業人の養成											<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人及び退職世代の受け入れを増やす</li> <li>・起業家を目指す人の受け入れを増やす</li> <li>・海外現地法人勤務を目指す人やすでに海外勤務をしている人の受け入れを増やす</li> <li>・企業派遣の受け入れ増加を通じて安定的な学生数を確保する</li> <li>・教員の企業派遣を通じ、ビジネスの現場での問題解決の実践</li> </ul>		
3	理論教育とカリキュラム構築のための教員採用及び研修	研究者教員の採用											<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの運営に必要な研究者教員の採用</li> <li>・専任教員数を収容定員に合わせた適正な数に変更する</li> <li>・専任教員の3割以上を研究者教員とする</li> <li>・特に組織人事・戦略・マーケティング・財務の各分野において、任期付きの研究者教員の採用を継続しつつ、高度な研究力に裏打ちされた教育を実現できる教員の採用を目指す。</li> <li>・研究者教員の増加及び専任教員数の減少に伴う専任教員の客員教員への異動に際し、既存教員の法人派遣数を増加させる</li> <li>・年齢構成や外国人教員、女性の採用を促進し、教育の質を担保するバランスの取れた教員構成の目標を策定するとともに、最適な任用計画を策定及び実施する。</li> <li>・DXに関連する科目を担当する研究者教員の採用</li> </ul>		
														<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジマーケティング分野やデータドリブンなマーケティング戦略を教える研究者教員の採用</li> <li>・グローバルな研究活動を推進するため、研究の基盤を海外に持つ教員を採用する。</li> <li>・日本語でのみ研究活動を行う研究者に限らず、英語のみならず中国語・フランス語・アラビア語等での研究業績を有する者を積極的に採用する</li> </ul>	
															<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当科目に合致する研究業績及び大学での担当する経営学分野の教育経験を有する教員を採用</li> </ul>
															<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者教員の研究業績の基準を策定する。研究業績の数に対する最低限の基準（ノルマ）に加え、研究成果の質を把握するための指標を策定する。</li> <li>・上記研究業績の基準の数に対する最低限の基準を、段階的に引き上げることで研究力の向上を目指す</li> <li>・研究者教員の研究業績の基準を、年間1つ以上の学術論文執筆とする。</li> </ul>
															<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者教員の教育に関するFDの実施</li> <li>・実務家教員の研究活動に関するFD</li> <li>・実務家教員の教育活動に関するFD</li> <li>・FD研修を通じた多様な授業形態の理解</li> <li>・FDとして科目履修及び教員のファシリテーションの能力強化、教員による相互視聴による教養能力の強化</li> </ul>
4	架橋教育	実践的な架橋教育の提供											<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者教員・実務家教員による共同科目の設置</li> <li>・研究者教員と研究業績を有する実務家教員の共同科目の設置</li> <li>・研究者教員単独の科目の設置</li> <li>・共同科目の設置に伴う研究者教員と実務家教員の役割の明確化</li> <li>・実務家教員と研究者教員の共同研究推進</li> </ul>		
														<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で活用可能なサーベイ論文・ケース作成支援</li> <li>・様々な研究者教員を中心とした学内研究会の開催（各分野の先端研究の共有・分野別のサーベイ論文の解説・研究内容の定期交換会）</li> </ul>	
		実務家教員の採用と支援												<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代のニーズに応じた実践的教育実現のための実務家教員の採用</li> <li>・社会の変化に合わせる必要があるため、実務家教員の教育内容には期限があることが多いことから、継続的な実務家教員の採用の仕組みの構築</li> <li>・時代の変化に応じ、実務家教員が柔軟にビジネスの現場に戻り、再び本学の実務家教員として復帰できる制度の構築</li> <li>・実務家教員が博士号を取得するための支援の整備</li> </ul>	
5	実践的学習の強化	実践的学習や応用・総合学習の強化											<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決型教育・各科目教育とRTOCSの連携強化</li> <li>・RTOCS等ケーススタディの強化</li> <li>・卒業研究の各ステップの明確化と評価基準の厳格化</li> <li>・ブレ卒業研究の実施</li> </ul>		
6	国際	学際的カリキュラムの構築及びキャリアサポート事業の推進											<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外現地法人勤務対象者や海外で起業を目指す人のためのグローバルな科目の増設</li> <li>・英語でのコミュニケーション等グローバル環境を想定した学生団体の設立支援</li> <li>・海外現地法人を持つ企業や海外大学との連携を通じたグローバルインターンシップ制度の構築</li> <li>・海外大学との単位互換・共同研究等を目的とする協定の締結</li> </ul>		
7	各種教育	教育活動の改善と各種教育活動											<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース別のコア科目の見直し及び再検討</li> <li>・入学前教育の検討</li> <li>・レベル別クラス編成の検討</li> <li>・カリキュラムの全体像と専任教員の役割に配慮した計画的な客員教員・非常勤講師の活用</li> <li>・より実践的な科目の開講</li> <li>・海外インターンシップや海外での実習科目の検討</li> <li>・大学院でのネイティブ教員との交流の促進</li> <li>・外国人学生への日本語等の教育支援</li> <li>・アカデミックライティングの強化</li> <li>・グループ学習を活用した科目の増設</li> <li>・科目レベルでの後継者育成の仕組みの確立</li> </ul>		
8	コミットメント	教員のコミットメント向上施策											<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の個別フィードバック率の上昇</li> <li>・教員の発言数の上昇</li> </ul>		



19	修了生支援	アルムナイ活動の充実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルムナイによる在学生との交流会の設置</li> <li>・地方別、国別の同窓会活動の開催の推進</li> <li>・教員の地域別・国別によるアルムナイ活動への出張講義</li> <li>・修了生に対するソフト・ハード両面での起業支援</li> <li>・大学院から卒業生、学生、父母等への定期的情報発信</li> <li>・入学式終了直後の速報の発行</li> <li>・卒業生・卒業生団体との連携強化</li> <li>・卒業生等との連携担当部署の設置</li> <li>・大学・AOBA・大学院からの情報発信</li> <li>・卒業生データの整備</li> <li>・ホームページ及びSNSを活用した双方向システムの実現</li> <li>・卒業生団体からの寄付講座による実践的講義の開催</li> </ul>
20		認証評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学基準協会へ本評価、改善報告書を作成。</li> <li>・中長期計画の枠内において、認証評価結果等の状況に応じて、適宜改善活動を実施する。</li> <li>・第4期認証評価にかかわる法令や基準との適合を検証し、教学マネジメントサイクルの方針、組織体制、規定改正をおこなう。</li> <li>・第4期認証評価の争点になる可能性のある実務教員への研究活動や教育に関するFD活動を企画・実現する</li> <li>・第3期認証評価の争点となったIR活動を軸にした教学マネジメント体制を堅持し、改善活動を実施する。</li> <li>・学生アンケートによる学生の成長や満足度、満足度に連動する学生個々人の満足要因・不満要因を可視化し、学生の成長に資する教育改善活動を進める。</li> <li>・全学的観点による評価方法、コースレベルの教育課程の評価方法を開発し、自己評価を担保する外部評価の方法を見直し、学生の成長を支援する評価を実施する。</li> </ul>
21	基本項目	大学マネジメントのための基本項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院担当副学長の配置</li> <li>・研究科の理念・目的の検証</li> <li>・研究科・専攻の基本方針（3つのポリシー）の策定</li> <li>・長期履修学生制度の導入</li> <li>・社会人の受入れの強化</li> <li>・大学院学生対象アンケートの実施</li> <li>・収容定員の適正化（定員の検討）</li> <li>・事務局組織編制を実施し、事務局の組織力強化とともに、認証評価のPDCAサイクルと将来構想を実現する組織として総合的に機能することを目指す。</li> <li>・意思決定プロセスの透明化・簡略化</li> <li>・経理規程、調達規程、固定資産・物品管理規程の制定等、財務関係諸規程の抜本的再整備</li> <li>・リスクマネジメント体制の確立</li> <li>・ハラスメント防止体制の整備</li> <li>・自己点検・評価の実施</li> <li>・認証評価を踏まえた活動</li> <li>・教員採用基準に基づく教員採用</li> <li>・毎年度採用ポリシーを作成し、それにもとづき選考プロセスを検証し、改善を図る。</li> <li>・FDの実施</li> <li>・SDの実施</li> <li>・AO入試導入</li> </ul>
22	教職協働	教職協働を実現するための職員の活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職務内容の明示と求めるレベルの具体的な提示</li> <li>・職員の総合的人事制度の再構築</li> <li>・目標管理制度の実施</li> <li>・事務局組織再編の実施</li> <li>・人事育成方針に基づく各種研修制度の充実</li> <li>・各科目・カリキュラム全体の職員の理解</li> <li>・研究倫理及び著作権規定などの職員の理解</li> <li>・研究活動全般の理解と研究推進を支える体制の整備</li> <li>・大学マネジメントを円滑にする教員職員それぞれの中間管理職の創設</li> </ul>
23	広報	戦略的広報活動の実現		<ul style="list-style-type: none"> <li>・千代田区等地域との連携による生涯学習講座の実施</li> <li>・交流事業の実施</li> <li>・大学セミナー、大学フェアの実施</li> <li>・メディア各社との懇親会の拡大</li> <li>・メディアとの連携企画の実施</li> <li>・ブランド力の定義づけ及びブランド構築に向けた中期計画の策定</li> <li>・大学院の戦略的広報活動の組織的連携体制整備</li> <li>・MBA教育そのものの認知度向上のための戦略的広報活動の体制構築</li> <li>・オンライン教育による学習効果の戦略的広報活動</li> <li>・国内主要都市・海外の都市の地下鉄・バス・電車等での広報活動や各種媒体を駆使した活動</li> <li>・学部教員の全国高校行脚の際の高校職員への大学院の理解度促進のための活動</li> <li>・統一感をもつ広報物の作成・発信</li> <li>・ホームページの機能強化</li> <li>・受験生を含むステークホルダーに対する接触型広報の充実</li> <li>・オープンキャンパスの内容の充実</li> </ul>